

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B 【解答】

問題 番号	設問	解答 番号	正解	配点	問題 番号	設問	解答 番号	正解	配点
第 1 問	1	1	2		第 5 問	1	18	1	
	2	2	1			2	19	3	
	3	3	4			3	20	1 又は 2	* 1
	4	4	3				21	解答番号 20 が 1 の 場合は 4 解答番号 20 が 2 の 場合は 2	
	5	5	1			4	22	3	
第 2 問	1	6	4		第 6 問	5	23	1	
	2	7	1			1	24	1	
	3	8	1			2	25	4	
	4	9	2			3	26	3	
第 3 問	1	10	4			4	27	3, 5	* 2
	2	11	2			5	28	2	
	3	12	3			6	29	4	
	4	13	6			7	30	4	
第 4 問	1	14	5			8	31	1	
	2	15	3		(注) * 1 は、解答番号 20 で 1 を選択した場合は 4 を、2 を選択した場合は 2 を正解とする。 * 2 は、過不足なくマークしている場合のみ正解と する。				
	3	16	2						
	4	17	1						



平成 29 年度 大学入学共通テスト 試行調査

日本史 B

Foresight 現役東大生の個別学習指導
オンライン家庭教師

■ 出題分析

配点	試験時間	大問数	センターとの難易度比較
100 点	60 分	6 題	やや難
センターとの分量比較			
減少 同程度 増加	設問数は減少したものの、本文ページ数・文章量は大幅増加		

<トピックス>

- 多種多様な資料（文献資料、絵図、絵画、表、グラフ等）を基に解答する問題が増加
- 上記変化と関連して、読み取る情報量が大きく増加し、解くのにかかる時間も以前より増加
- 生徒が特定のテーマについて発表する、という形式の出題が顕著に増加
- 他方で、問われている知識のレベルは従来のセンター試験と同程度

■ 全体分析

「特定のテーマについて学んだ生徒が発表を行う」という場面設定が強く意識され、「なぜ、そのような歴史的イベントが起きたのか」といった因果関係を考えさせるような出題が目立った。このような形式は、「知識量」を主として問うていた従来のセンター試験とは大きく異なるものであり、「思考力・判断力・表現力」を問う「大学入学共通テスト」の姿勢がよくあらわれている。ただし、受験生が行うべき学習方法はそれほど変わらない。従来通り、教科書・参考書を用いて日本史の基本的な知識の理解を進めつつ、参考書・問題集などで演習を積み、このような形式に慣れていくのが王道となるだろう。

■ 大問別分析

※ 難易度は5段階表示で、フォーサイトの見解によるものです

問題	出題分野・テーマ	センター試験との相違点・コメント	難易度※
1	古代・中世の政治的意思決定	ポスターを読んで空欄に当てはまる選択肢を選んだり、資料内の文章を図で表現したりなど、知識や情報を整理して表現する「表現力」を問う設問が多く出された。	やや易
2	邪馬台国と古代における「日本」	資料中の登場人物の心情を推測したり、資料から読み取れる情報と文化財が生まれた背景をリンクさせたりする設問が出題された。様々な基礎知識をいかに応用できるか、が問われたといえよう。	やや難
3	史料から読み取る中世の生活	絵図や仏堂の構造図などから、中世における土地制度や仏教の社会的役割などを推論するという新傾向の大問だった。「大学入学共通テスト」では、様々な資料から情報を読み取って歴史的事象を推論する能力が求められるということをよく反映している。	やや難
4	近世の大名と流通	知識を元に推測・推論したり、仮説を立てたりするなど、応用力を問う問題が多く出された。問2のように、「事実」そのものを問うのではなく、ある「仮説」が資料から論理的に導かれるものとして適切か否かを問う問題が特徴的であった。	やや難



5	近代の外交と立憲政治	「世界の中の日本」という視点を問うような問題が多く出された。問 3 では、「大学入学共通テスト」の特徴でもある「複数の解答があり得る」問題も出題されており、新しいテストの独自性もよくあらわれている。	標準
6	近現代の経済と社会	グラフや表をはじめとして、絵画や史料など、バラエティ豊かな資料を用いた出題がなされた。また、経済史・産業史・社会史が政治史よりも多く出題された点が特徴的である。	やや難

■ 合格への学習アドバイス

- ・史料問題が圧倒的に増加した上に、単に史料の内容を読み取るだけでなくそこから推論を行って答える問題等もみられるようになった。その一方で、問われる知識の深さ・細かさについては若干難易度が低下した印象も受ける。受験生は、教科書・参考書で基本的な知識のインプットを進めつつ、「大学入学共通テスト」形式の演習を積むのが良いだろう。
- ・時間内に処理すべき情報量が増え、時間的な制約が増した。このような制約に慣れるためにも、上記で述べた「大学入学共通テスト」形式の演習は非常に重要となるだろう。それに加えて、普段から図説・資料集をチェックして、日本史の出来事を様々な観点から考えるクセをつけるとよいだろう。
- ・従来のセンター試験よりも、問題文の量が大幅に増えた。このような問題文は設問に解答する為に必要な情報を提供していることも多いので、しっかり読むように心がけよう。分量の増加によって時間的な制約も高まっている中、注意深く問題文を読むのは非常に大変であるので、できるだけ早い時期から対策を行っていこう。
- ・歴史相互のつながりや因果関係、現代的課題への応用などがよく問われている点は、二次試験で論述問題を課されるような受験生には有利かもしれない。そういった受験生にとっては、新テストの難易度はそれほど問題にならないだろう。他方で、二次試験で一問一答のような細かい知識を問われる受験生（例えば、難関私立大学を受ける受験生）や二次試験で日本史を使わない受験生にとっては、新テスト独自の対策を十分にしておくことが必要となるだろう。

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B

第 1 問

出題範囲	古代・中世の政治的意思決定
難易度	★★☆☆☆
所要時間	得意：8 分 ふつう：9 分 苦手：10 分
講評	古代・中世における政治的意思決定プロセスに関する設問であった。生徒らが資料をもとに提示した仮説に関するポスターを読み、空欄に当てはまる選択肢を選ぶという新しい形式であった。ただし、難易度はそれほど高くなく、資料を正確に読むことさえできれば解答可能な問題が多かった。なお、問 4 では資料内の文章を図で表現することが求められ、知識や情報を自分の中で整理して表現できるか、も問われたと言えよう。

問 1 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- I A 班発表資料を読むと、「左大臣の藤原道長」「右大臣の藤原顕光」「参議の藤原行成」といった公卿^{くぎょう}が会議に参加しているとわかる。そして、「藤原行成から順番に意見を述べていった」と書かれている。当時、国政の運営は、太政官^{だいじょうかん}の太政大臣（置かれないこともあった）、左大臣、右大臣、大納言（途中から中納言・参議が加わる）などの公卿による合議によって進められていた。参議は左大臣・右大臣よりも低い地位であったため、a が当てはまる。
- II 資料には、「定文は天皇に奏上され、申請の諾否が決められた」とある。すなわち、公卿らの合議の結果をもとに天皇が意思決定を行う^{さいか}（「裁可する」と表現する）のである。よって、最終決断を行うのは天皇であり、公卿らの合議はあくまで天皇に参考意見を提供するためのものであるとわかる。したがって、d が当てはまる。

以上より、I－a、II－d である②が答えとなる。

問 2 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- I 「道理^{どうり}」とは、武士たちが日常生活の中で育んできた慣習や道德のことである。よって、道理が重要であることの理由づけとしては、a が当てはまる。
- II 資料内の（注 4）を踏まえると、「権門を恐れず」とは「権勢のある家柄を恐れず（気にせず）に」という意味である。よって、これが重要であることの理由づけとしては、「身分が上のものに遠慮しない」という要素を含む c が当てはまる。d の「律令法」という要素については、資料文から読み取ることができない。

以上より、Ⅰ－a、Ⅱ－c である①が答えとなる。

問 3 3 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

C 班発表資料内の資料『今堀日吉神社文書』を読むと、この資料はどのような人物が「咎^{とが}たるべき者」なのかを定めたものだとわかる。(注) から「咎＝罰金」とわかるので、これは刑罰を定めた文章であると判断できる。よって、ウには「Y 村における裁判権の行使に関すること」が入る。また、この文章が協議された^{よりあい}寄合が、^{おとな}乙名・^{としより}年寄・^{さたにん}沙汰人という指導者層を中心としつつも村人全員が参加する話し合いの場であったことを踏まえれば、エに当てはまるのは b であると判断できる。よって、Y－b である④が答えとなる。

問 4 4 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

D 班発表資料から、「堺は、有力な町衆である^{かいごうしゅう}会合衆によって治められている」ことがわかる。また、会合衆はベニス市の執政官に類似していると指摘されている。ベニス市は、命令者ではなく執政官によって治められており、執政官は市民の代表として選出されたことが、資料（『フリードリヒ 1 世事績録』におけるベニス市などの記述）からわかる。こういった性質を会合衆も有していると考えれば、幕府や大名（といった命令者）から自立しつつ、町衆らの代表者でもある様子を表現している③が答えとなる。

問 5 5 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- X 正 各種資料から、「ルールにもとづいて議事が進められた」ことがわかる。例えば、A 班の発表資料では「地位の低い公卿から意見を述べた」ことが指摘されていた。この点については、法律をはじめとする様々なルールにもとづいて国会の議事が進む現在の日本と共通している。
- Y 正 各種資料から、「社会の階層によって参加が制限された」ことがわかる。例えば、B 班の発表資料では「武士の中でも限られた人々が、評定という形式で会議を開いたことが指摘されていた。この点については、年齢の制限（18 歳以上）はあるものの、社会の階層に関係なく平等に政治参加が可能な現在の日本と異なっている。

以上より、X－正、Y－正である①が答えとなる。

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B

第 2 問

出題範囲	邪馬台国と古代における「日本」
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：7 分 ふう：8 分 苦手：9 分
講評	第 2 問は、古代の東アジアにおける邪馬台国や「日本」の位置づけなどをテーマとする大問であった。2 名の生徒の発表資料をもとにした設問に答えるという形式であり、資料中の登場人物の心情を推測したり、絵や資料から情報を読み取ったりと、知識の「応用力」がかなり問われた設問であったと言えるだろう。十分な基礎知識を有していても、形式に慣れなければ高得点は狙えないため、共通テスト形式の問題演習を積んで対策しておこう。

問 1 6 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① ^{ごきょうはかせ}五経博士が百済から渡来したのは、6 世紀のことである。彼らは、**儒教**や**仏教**、医・易・暦などの学術を日本列島にもたらした。
- ② 関東の勢力が政治的中心となるのは、早くても武士が登場してからと言える。よって、明らかに 4 世紀ではない。
- ③ ①の解説でも述べたように、日本列島に**仏教**がもたらされたのは 6 世紀のことである。なお、仏教伝来の時期については、『^{じょうぐうしやうとくほうおうていせつ}上宮聖徳法王帝説』『^{がんごうじえんぎ}元興寺縁起』などによる 538 年説と『日本書紀』による 552 年説の 2 つがある。
- ④ 4 世紀（古墳時代前期）には、西日本の各地に大規模な前方後円墳・前方後方墳がつくられたが、^{たてあな}竖穴式石室であったり、^{さんかくぶちしんじゅうきよう}三角縁神獣鏡などの呪術的性格の強い副葬品がみられたりと、画一性が高かった。これらは、このような古墳の出現に先立って各地の政治勢力の間に連合関係が生まれていたことを反映している。

以上より、答えは④である。

問 2 7 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

X 下戸とは、当時の庶民のことを指す。よって、a の「毎日の暮らしのことしか分からない自分には関わりがないことだ」の方が適していると判断できる。

Y 資料から、Y の人物は朝鮮半島の^{たいほうぐん}帯方郡に派遣された外交使節であるとわかる。よって、d の「内政にかか

わる監督官」は不適であり、「無事に中国にわたり、魏の皇帝と上手に交渉をまとめたい」という c が当てはまると判断できる。

以上より、X－a、Y－c である①が答えとなる。

問 3 8 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

X 正 年表から、百済は梁（中国）に何度も朝貢しており、梁から將軍号をもらったり、博士・工匠・画師を求めるなどの文化の受け入れに積極的であったりしたことがわかる。よって、これは正しい。

Y 正 年表からは、倭と梁（中国）の間の外交上の交流は 502 年の一回のみだとわかる。これは、百済と梁（中国）との間のそれよりも非常に少なく、これが倭国使が古い時代の風俗（簡素な布の衣服・はだし等）で描かれた理由であると推論できる。

以上より、X－正、Y－正である①が答えとなる。

問 4 9 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

経筒に記された埋経の趣旨にある「極楽浄土に往生」という部分から、この経筒に示される仏教信仰は浄土教（浄土信仰）を指すとわかる。

- ① この文化財は、「^{いちのひじり}市聖」と呼ばれた^{くうや}空也の様子をあらわしたもの（空也上人像）である。彼は京の市で念仏の教えを熱心に説いて、浄土への往生を求める貴族や庶民の信仰を集めた。
- ② この文化財は、^{まんだら}曼荼羅である。曼荼羅とは、大日如来の智徳を表す金剛界と、その慈悲を表す胎藏界の仏教世界を整然とした構図で図化したものであり、^{みつぎょう}密教の影響を受けたものである（密教芸術）。よって、これは浄土教を表す文化財として適当でない。
- ③ この文化財は、^{びょうどういんほうおうどう}平等院鳳凰堂である。これは、藤原道長の子である^{よりみち}藤原頼通が宇治に建てた。^{あみだどう}阿弥陀堂と呼ばれるその建築様式には、浄土教の影響がよくみられる。
- ④ この文化財は、^{らいごうず}来迎図（「高野山聖衆来迎図」）である。来迎図とは、阿弥陀仏が往生しようとする人々を迎えに現世に來臨する姿を描いた絵画であり、浄土教の影響を強く受けていることはいうまでもない。

以上より、答えは②である。

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B

第 3 問

出題範囲	史料から読み取る中世の生活
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：7 分 ふつう：9 分 苦手：10 分
講評	本問は、絵図や仏堂の構造図などから、中世における土地制度や仏教の社会的役割などを推論するという新傾向の大問だった。「大学入学共通テスト」では、様々な資料から情報を読み取って歴史的事象を推論する能力が求められることをよく反映しているといえるだろう。ただし、問 3 でも扱われているように、一つの資料から歴史の全てを読み取ることは困難であり、教科書などを用いて基本事項を理解・記憶しておくことは今後も変わらず求められるだろう。

問 1 10 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

絵図は、^{したじちゅうぶん}下地中分に関するものである。これは鎌倉時代の中期以降（承久の乱後）、盛んにみられた。

- A 「荘園の増加が進み、一国内は荘園と国衙領で構成されるようになった」という記述は、平安時代後期以降の荘園公領制を意味している。
- B 「東国に誕生した武家政権は、地頭設置を朝廷に認めさせ、地頭は荘官などの権限をひきついだ」という文章内の「東国に誕生した武家政権」とは、鎌倉幕府を指す。源頼朝が地頭の任命権などを獲得したのは 1185 年のことである。
- C 「没収した朝廷方所領に新たに地頭がおかれ、地頭の設置範囲が西日本にも拡大した」のは、1221 年の承久の乱直後のことである。この際、新たにおかれた地頭のことを^{しんぽじとう}新補地頭と呼ぶ。
- D 「戦国大名の領国支配が強化されるとともに、荘園はほぼ解体した」のは、戦国時代のことである。

以上より、A（平安後期）→B（鎌倉初期）→C（承久の乱直後）→D（戦国時代）という順である。よって、下地中分は C と D の間の時期であり、④が答えとなる。

問 2 11 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 資料Ⅱには、「道路がある場所はそこを境界とし、ないところは朱線を引き」とある。よって、「道路がある所だけで境界を定めた」という記述は不適である。
- ② 資料Ⅱから、「田畠は田畠で分割するという取り決め」があるために、単純な東西分割ではなく、複数の中文線が引かれたとわかる。よって、この記述は適当である。

- ③ 確かに、資料Ⅰをみると「荘園の中央に湖が存在する」が、それだけでは中文線が複数ある理由にはならない。
- ④ 資料Ⅰ・資料Ⅱからは、「地頭が有利になるように分割した」ということを読み取ることはできない。むしろ、用途ごとに土地がその都度折半されるなど、地頭と領家は平等に扱われたと考えられる。
- 以上より、答えは②である。

問 3 12 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 資料Ⅰの甲には、「置福寺」という記述がある。よって、この絵図から「東郷荘には、どのような宗教施設があったか」を読み取ることは可能である。
- ② 資料Ⅰの絵図には、田畠・馬などの記述があり、そこで耕作や牧畜が営まれていたことがわかる。よって、「東郷荘の人々が、どのような仕事をしていたか」を読み取ることは可能である。
- ③ 資料からは、「東郷荘では、年貢や公事はどのような方法で徴収されたか」を読み取ることはできない。
- ④ 資料Ⅰには、^{しつけん}執権・^{れんしよ}連署の署名が見られる。幕府の実力者である彼らによる署名の存在から、「東郷荘の内地中分は、政権により承認されていた」と判断できる。
- 以上より、答えは③である。

問 4 13 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

カード（左）の「国家の安定を目的とした仏教」という記述から、**奈良時代の鎮護国家**^{ちんごこっか}思想を想起したい。特に、**聖武天皇**はこの思想によって国家の平和と安定をはかり、741年に**国分寺建立の詔**^{みことのり}を出し、国ごとに国分寺・国分尼寺を設けさせることにした。

カード（真ん中）の「民衆を救済する仏教」という記述から、**鎌倉時代の鎌倉新仏教**^{ほうねん}を想起したい。**法然**が開いた**浄土宗**^{しんらん}、**親鸞**が開いた**浄土真宗**^{いっぺん}、**一遍**が開いた**時宗**^{じしゅう}などの念仏3宗や、**栄西**が開いた**臨済宗**^{りんざいしゅう}や**道元**が開いた**曹洞宗**^{そうとうしゅう}などの坐禅を重視するもの、**題目**を重視する**日蓮宗**^{にちれんしゅう}などがよく知られている。

カード（右）の「仏の加護を願って、一定期間仏堂にこもる」という記述から、**平安時代の浄土教**を想起したい。浄土への往生を求めることで現世の苦しみから逃れようとした貴族らを中心として、浄土教は10世紀以降に流行した。

以上から、3枚のカードを時代順に並べると、**カード（左）〔奈良時代〕→カード（右）〔平安時代〕→カード（真ん中）〔鎌倉時代〕**となるとわかる。

次に、それぞれのカードの後半部分を検討しよう。以上の時代順を踏まえると、「僧侶だけが仏堂の中で読経」→「仏堂にこもる習慣が貴族の間に広がっていった」→「信者が一斉に集まって祈る場としての仏堂が作られた」

という順になる。すなわち、時代を経るにつれて、仏堂内に集まる人がどんどん増えていったことを読み取ることができるのである。奈良時代（カード（左））には僧侶だけが、平安時代（カード（右））には貴族も、そして鎌倉時代（カード（真ん中））には（庶民も含む）多くの信者が仏堂に集まっていたのである。それに伴い、仏堂自体の大きさもどんどん拡大していくと予想できる。

以上を踏まえ、選択肢ア・イ・ウを検討していこう。「縮尺は同じではない」ため、単純に仏堂の大きさの比較はできない。しかし、仏像が置かれている「須弥壇」に僧侶や信徒がのぼることは考えにくいことを踏まえれば、仏堂内の「須弥壇以外」の部分が仏堂全体に対してどのくらいの割合を占めているのかを考えればよい。選択肢の図から、ウーイーアの順で、「須弥壇以外」の割合が増えていることから、⑥が答えとなる。

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B

第 4 問

出題範囲	近世の大名と流通
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：8 分 ふつう：9 分 苦手：10 分
講評	本問では、単に知識をもっていれば解ける問題ではなく、知識を元に推測・推論したり、仮説を立てたりするなど、応用力を問う問題が多く出された。問 2 のように、「事実」そのものを問うのではなく、ある「仮説」が資料から論理的に導かれるものとして適切か否かを問う問題が特徴的である。教科書などを用いた日本史の基本的な勉強のみならず、日頃から論理的に物事を考えるように意識することが、このような問題を処理する上で必要となるだろう。

問 1 14 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

- ① 江戸時代には、強力な領主権をもつ将軍と大名が土地と人民を統治する幕藩体制という支配体制が成立しており、大名間で領地の奪い合いを行うことは不可能だった。よって、「武力で領地を奪ったり、取り戻したりすることができなかった」という記述は正しい。
- ② 18 世紀はまだ鎖国体制下であったため、「自由に外国と交易することを許されなかった」という記述は正しい。オランダ・中国との交易は長崎に限定され、幕府の統制下におかれた。
- ③ ①の解説と同様に、「将軍の全国統一的な軍事指揮権の下に置かれた」という記述は正しい。
- ④ 戦国時代には、領国支配の基本法である分国法（家法）を制定する戦国大名もいた。代表的なものとして、伊達氏の塵芥集、武田氏の甲州法度之次第、朝倉氏の朝倉孝景条々などが知られる。よって、この記述は正しい。
- ⑤ 1615 年の武家諸法度（元和令）では、幕府に対抗しうる大名の軍事力を弱体化させるために、城郭の整備・修復を（事前）許可制にしたり、城郭の新たな造営を禁止したりした。よって、この記述は誤りである。

以上より、答えは⑤である。

問 2 15 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

問われているのは「仮説として成り立たないもの」である点に注意したい。歴史的事実ではなかったとしても、手持ちの材料（資料）から論理的に推論できるものであれば、仮説としては成立しているのである（その仮説が

事実と一致するか否かはまた別の話である)。

- ① 「江戸文化に親しんだ生活は、藩邸の出費を増加させ、財政が悪化したのではないか」という仮説は成立しうる。
- ② 「幼少時より江戸住まいが長いので、大名や嫡子の交流が盛んになったのではないか」という仮説は成立しうる。
- ③ 「享保の改革の政策である上げ米の制は、大名には喜んで迎えられたのではないか」という仮説は成立しない。というのも、^{きょうほう}享保の改革における^{あがめ}上げ米の制とは、幕府が大名に対して領地 1 万石につき 100 石を献上することを命じたものである。よって、上げ米の制は大名の負担を高めるものであり、「喜んで迎えられた」とは考えにくい。それに加えて、幕府は上げ米の見返りに、江戸在府期間を 1 年から半年に縮減するといった^{さんこん}参勤交代の^{えんわ}緩和を行った。仮に、江戸に愛着を感じる大名が増えているならば、このような参勤交代の緩和を「喜んで迎え」るのではなく、むしろ残念に思うと推論すべきである。
- ④ 「廃藩置県が実施される際、知藩事であった旧大名は東京集住に大きく抵抗しなかったのではないか」という仮説は成立しうる。

以上より、答えは③である。繰り返しになるが、これは①・②・④が事実として正しいということを意味するわけではない。①・②・④は「仮説の立て方としては」正しいというだけである。

問 3 16 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 1643 年前後の寛永の(大)飢饉をきっかけに、幕藩領主らは農業を勧め(^{くわん}勸農)、藩内の耕地・水田は激増した。このことは「^{だい}大開発時代」と呼ばれ、各藩の財源強化にも寄与した。
- ② 17 世紀後半には、^{しやうひん}商品作物の栽培を行う地域が増加し、各地に^{とくさん}特産物が生まれていた。18 世紀後半の^{きやう}寛政の改革と前後して、各藩では藩財政の危機に対処するために改革が行われた。その際、確かに各藩は特産物生産を奨励したものの、それらを藩が独占的に集荷・販売する^{せん}専売制も強化した。よって、「自由に販売させた」という部分が誤りである。
- ③ 19 世紀前半の^{はん}藩政改革では、鹿児島(薩摩)藩の^{ずしよひろさと}調所広郷(下級武士出身)など、有能な中・下級武士が登用された。この時期に改革を成功させた薩長土肥以外にも、伊達宗城の^{むねなり}宇和島藩や松平慶永の^{よしなが}福井(越前)藩など、有能な中下級武士を藩政の要職に抜擢する例が多く見られた。
- ④ 19 世紀前半の^{はん}藩政改革では、鹿児島(薩摩)藩における^{くろさとう}黒砂糖の専売や佐賀(肥前)藩における陶磁器の専売など、専売制が強化された。また、^{はんしやう}反射炉などの洋式技術の導入や洋式武器の購入などが盛んに行われた。

以上より、答えは②である。

問 4 17 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- a 資料内の「昆布は、主に北海道で採取される海産物である」からもわかるように、^{えぞち}蝦夷地は昆布の主要生産地の一つであった。^{きたまえぶね}北前船によって蝦夷地と大坂が結ばれたことは、昆布が全国市場で流通するきっかけになったと言えるので、このことは、那覇市（琉球）で昆布消費量が増えた歴史的背景として適切である。
- b 問 3 の解説でも述べたように、諸藩で専売制の導入が進んだことは確かであるが、そのことと那覇市の昆布消費量が多いことを結びつけることはできない。
- c 資料内に「中国では、高級食材や薬として昆布が消費された」と示されているように、昆布や^{たわらもの}俵物は中国（清）への主要な輸出品であった。「島津氏が琉球王国を支配し、中国への使節派遣と交易を継続させた」ことは、昆布が琉球にもたらされる（その後、中国へ輸出される）契機となったと考えられる。よって、この選択肢は適切である。
- d 「出島を通じてオランダとつながる海外交通路が維持された」ことと那覇市の昆布消費量が多いことを結びつけることはできない。

以上より、a－c である①が答えとなる。

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B

第 5 問

出題範囲	近代の外交と立憲政治
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：7 分 ふつう：8 分 苦手：9 分
講評	本問では、「世界の中の日本」という視点を問うような問題が多く出された。問 3 では、「大学入学共通テスト」の特徴でもある「複数の解答があり得る」問題も出題されており、新しいテストの独自性もよく表れている大問と言えるだろう。ただし、全体としての難易度はそれほど高くない。完答できなかった受験生は解説をよく読み、基本知識をもう一度確認しておこう。

問 1 18 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

本問は、世界史（アメリカ史）の知識も多少要求するため、やや難しいと言えるだろう。

- a アメリカが「カリフォルニアまで領土を拡張」したのは、1848 年のことである。同年、アメリカはメキシコとの戦争（**米墨戦争**）に勝利してカリフォルニアを獲得し、同地で金鉱が発見されたことをきっかけに西部進出が急速に進んだ（**ゴールドラッシュ**）。太平洋に面するようになったアメリカは、中国との貿易や北太平洋での捕鯨に関心を持つようになり、貿易船・捕鯨船の燃料や食料の補給を受けたり、緊急時の避難をしたりする寄港地を求めていた。その 1 つが日本であり、結果として 1853 年にペリーが来航したのである。よって、この選択肢はカード 1 に入る。
- b アメリカにおける「国内を二分した戦争」とは、**南北戦争**のことを指す。これは 1861 年から 1865 年にかけて行われた内戦であり、1853 年のペリー来航の背景・理由にはならない。また、ペリー来航の結果として南北戦争が起きたと考えることもできない。
- c 1853 年のペリー来航の結果、1854 年に**日米和親条約**が、1858 年に**日米修好通商条約**が締結され、日本は開国を行った。この結果、外国人に関する瓦版や錦絵が民衆の間でも多数出回り、「アメリカなど欧米への関心が高まった」と言える。よって、この選択肢はカード 3 に入る。
- d 開国直後の日本にとって、最大の貿易相手国はアメリカではなく**イギリス**であった。よって、この選択肢は誤り。なお、最大の開港場は**横浜**であり、日本からは**生糸**・茶・**蚕卵紙**（さんらんし）などが輸出され、毛織物・綿織物などの繊維製品や武器・艦船などの軍需品などが輸入された。

以上より、カード 1—a、カード 3—c である①が答えとなる。

問 2 19 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

X 日米修好通商条約において優先された「外国の利益」とは、^{りょうじさいばんけん}領事裁判権（日本に滞在する外国人の裁判は、その外国人の本国の法と領事によって行われる）の承認と、日本に^{かんぜいしゅけん}関税自主権がないことの主に 2 つである。よって、X の評価の根拠づけとしては選択肢 b が適する。

Y 日米修好通商条約で考慮された「当時の日本の実情」とは何か。開国以前に日本に住んでいた外国人の数は少なく、もし外国人の居留を全国一斉に許可すれば、日本の民衆の行動様式や商慣習と外国人のそれとが衝突することも考えられた。したがって、外国人の居住と商業活動は^{きゅうど}居留地のみに限定されたのである。よって、Y の評価の根拠づけとしては選択肢 c が適する。

以上より、X—b、Y—c である③が答えとなる。

問 3 20 ・ 21 正解は①・④ または ②・②

難易度 ★★★★★

解説

①を選んだ場合：^{いみなおすけ}桜田門外の変は、1860 年に大老の井伊直弼が水戸浪士などによって暗殺された事件である。

井伊直弼は、日米修好通商条約の無勅許調印や^{よしとみ}徳川慶福の將軍継嗣（慶福は 14 代將軍^{いえもち}家茂となる）など、強権による専制的な政治運営を行っていた。また、1858 年の^{あんせい}安政の大獄で^{はしもときない}橋本左内や^{よしだしやういん}吉田松陰を処刑するなど、反対派を厳しく弾圧したことで有名である。このような特徴をもつ井伊直弼が暗殺されたことは、一部の有力者による専制的・強権的な政治の限界を示すと言えるため、できごと①を支持する理由としては④が適切である。この場合の答えは、①・④となる。

②を選んだ場合：^{たかすぎしんさく}高杉晋作や^{かつらこころう}桂小五郎などの急進派が主導権を握った長州藩に対して、幕府が諸藩に出兵を命じ、1866 年に^{だいにしちちやうしやう}第二次長州征討（長州戦争）が行われた。しかし、^{さむら}薩長連合を結んでいた薩摩藩が幕府の命令に応じなかったこともあり、征討は失敗に終わった。この事件は、徳川幕府の圧倒的な軍事力への疑念を生み、その後の幕府支配を困難にした。よって、できごと②を支持する理由としては②が適切である。この場合の答えは、②・②となる。

問 4 22 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

「国会開設の大詔」から「憲法発布」、そして「帝国議会」で上ることから、このすごろくは「③ 立憲政治が成立する過程」を主題としていると判断できる。以上より、答えは③である。

問 5 23 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- ① 第 1 回帝国議会の議場と議員の様子が描かれている絵画資料から選挙後の政党の勢力分布を読み取っても、「選挙権を有する人」の変化についての情報は得られない。よって、この選択肢は不適である。
- ② 選挙法の改正を審議している議会の議事録を調べ、その社会的な背景を読み取ることで、政治家を選出した「選挙権を有する人」についての情報や、どのような人に選挙権を拡大しようと企図しているのか、などについて情報を得ることは可能である。
- ③ 選挙資格を持つ納税者の推移を調べ、納税資格と選挙権を持つ人の増減を読み取ることは、まさに「選挙権を有する人」についての情報を得るということである。
- ④ 衆議院選挙で使われたポスターを調べ、どのような人々に投票を呼びかけているかを読み取ることは、政治家がどのような人にアピールしようとしたかを明らかにする試みであり、「選挙権を有する人」についての情報を得ることにつながる。

以上より、答えは①である。

平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 日本史 B

第 6 問

出題範囲	近現代の経済と社会
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：9 分 ふつう：10 分 苦手：12 分
講評	グラフや表をはじめとして、絵画や史料など、バラエティ豊かな資料を用いた出題がなされた。特に、グラフや表に関しては、資料から数値情報を読み取った上で、それがどのような意味を持つのかを論理的に考える必要がある。数字に苦手意識を持つ受験生は、問題集・参考書などで演習を多めに行い、よく対策しておくべきだろう。また、今回出題された経済史・産業史・社会史は政治史よりも「忘れがち」な分野であるが、このような分野についても教科書レベルの知識をしっかりとインプットしておく必要がある。

問 1 24 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

X 正 グラフを見ると、1920 年代まで繊維工業は鉄鋼業、機械工業・造船業よりも寄与率が高く、その値自体も常に 25%以上であった。よって、この時期に関して、繊維工業は日本の製造工業生産額の成長をけん引していた、といえる。

Y 正 グラフを見ると、機械工業・造船業の寄与率は 1920 年代のみ大きく落ち込み、それ以外の時期に関しては一貫して増加傾向であるとわかる。1920 年代は第一次世界大戦後の国際協調で特徴付けられる時期であり、軍縮も進められた。1922 年にアメリカ・イギリス・日本・フランス・イタリアの間で調印されたワシントン海軍軍縮条約では、主力艦保有比は 5 : 5 : 3 : 1.67 : 1.67 とされ、今後 10 年間の主力艦建造の停止などが定められた。グラフ内の 1920 年代の大きな落ち込みは、こういった背景によるものであると考えられる。機械工業・造船業の寄与率が低迷したのが軍縮期であったということは、裏を返せば、機械工業・造船業の寄与率が成長したのは軍備が拡大する時期であったということである。

以上より、X—正、Y—正である①が答えとなる。

問 2 25 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

問われているのは、1890～1910 年の出来事についてである。

- ① 1883 年に操業を開始した大阪紡績会社の成功を機に、1880 年代末には大規模な機械制生産による紡績会社が次々と設立された。その結果、綿糸輸出は増加し、1897 年には輸出高が輸入高を上回った。
- ② 1896 年に制定された造船奨励法によって船の国産が推進され、その輸入に歯止めがかけられた。

- ③ 製糸業は輸出産業として 1890 年代以降急速に発展し、1894 年には器械製糸による生産高が座繰製糸の生産高を上回るなど、大規模化が進められた。生糸はアメリカ・ヨーロッパに輸出され、外貨獲得に貢献した。
- ④ 確かに、官営八幡製鉄所の操業開始は 1901 年であるが、そこでは国内向けの鉄鋼が生産された。八幡製鉄所は国産の石炭を用い、中国から輸入した鉄鉱石から鉄を生産し、日露戦争後には国内の鉄鋼生産の 70~80%を担った。

以上より、答えは④である。

問 3 26 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

1930 年代の経済政策に関連する資料を選択すれば良い。

- I 誤 資料内の「主要消費者貨物の生産に必要となる商品を、ただちに最大限度まで生産」「住民の食、衣および住に必要となる商品の生産に優先順位」などの記述から、この資料は 1930 年代の統制色の強い経済政策ではなく、住民の生活必需品の生産を推進する政策に関するものであるとわかる。なお、この資料は終戦後に GHQ が日本政府に発した指令の一部である。
- II 正 資料内の「八幡製鉄所および民間製鉄所を打って一丸とする大合同会社を設立」という記述から、この資料は 1934 年に半官半民の国策会社として発足した日本製鉄会社に関するものとわかる。
- III 正 資料内の「綿花の輸入を制限するとともに、これを原材料とする綿製品の輸出を促進」「綿糸の消費はできるかぎりこれを節約する」などの記述から、この資料は日中戦争勃発直後に公布された輸出入品等臨時措置法に関するものとわかる。その後、1938 年に公布された国家総動員法は、経済や国民生活の様々な分野に対して政府が直接統制を加えることを可能にし、戦時経済体制の形成が進められた。

以上より、I－誤、II－正、III－正の組み合わせが正解となり、③が正解である。

問 4 27 正解は③・⑤

難易度 ★★★★★

解説

- ① ③の解説を参照されたい。
- ② ③の解説を参照されたい。
- ③ 図をよく見ると、兵士らの背後の波しぶきが非常にダイナミックに描かれていることがわかるだろう。このことから、「入念な描き込みで戦争を演出しない」1937~41 年の戦争画ではないとわかる。また、「正義の味方の勝利」という表現は図には無いため、1941 年の日米開戦直後の戦争画でもない判断したい。前述の波しぶきのダイナミックな表現や、死にゆく兵士たちの表情、凄惨な戦場の様子などが、(写実的ではなく)想像力豊かに描かれていることから、これは 1942 年のミッドウェー海戦敗北による戦局悪

化後に描かれたと判断できる。

- ④ 確かに、「絶望的な死闘」の様子が描かれてはいるものの、資料の「国民のほうもまた、みずから戦意高揚されることを望んで戦争画を見に行っていた」という記述から、「まもなく戦争が終わることを国民に知らせるものとして美術展に出品された」とは判断できない。
- ⑤ 積み重なる死体の山などから、図の主題が「日本兵の死」であるということに違和感はないだろう。資料からも「総力戦への覚悟を国民に促す」ために出品されたという説明は適切である。
- ⑥ 図から、「社会主義運動を暗示する」要素を読み取ることはできない。

以上より、答えは③・⑤である。

問 5 28 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

X 1945 年 8 月 8 日、ソ連が日ソ中立条約を侵犯して日本に対して宣戦布告を行ったが、その際に侵攻されたのは満州・南樺太・千島である。よって、日本国内への引揚げに際して残留孤児となった人が多く生まれた地域としては、a の旧満州国が該当する。

Y 「長い間アメリカの施政権下に置かれることとなった」のは、d の沖縄である。沖縄は 1951 年のサンフランシスコ平和条約締結による日本の独立回復後もアメリカの施政権下に置かれていたが、1972 年に日本に復帰した。

以上より、X—a、Y—d である②が答えとなる。

問 6 29 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

ア 1955 年は、高度経済成長が始まる時期であるが、この時期には、造船・鉄鋼・電気機械・石油化学などの重化学工業部門を中心に設備投資が盛んになされた。よって、「大型設備投資による景気拡大」が当てはまる。なお、「アメリカ軍による特殊需要」が発生したのは 1950 年に勃発した朝鮮戦争の影響であり、1955 年よりも少し前のことである。

イ 貿易に関して「戦前最大の輸出先」であったのは、中国である。

以上より、ア—大型設備投資による景気拡大、イ—中国である④が答えとなる。

問 7 30 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 1954 年に行われたアメリカの水爆実験により、第五福竜丸が被害を受けた事件（第五福竜丸事件）をきっかけに、翌年、原水爆禁止を求める第 1 回原水爆禁止世界大会が広島で開催された。

- ② 労働者の頂上団体である、日本労働組合総評議会（通称、「総評」）の呼びかけにより、各産業が一斉に賃金上昇を求める「^{しゅんとう}春闘」方式が 1955 年から開始された。
- ③ 1955 年、左派と右派が対立してきた社会党が再統一を果たしたことに對して、財界の強い要望もあり、日本民主党と自由党が保守合同を行った。それによって、自由民主党（自民党）が誕生した。これ以降、保守勢力（自民党）が国会の議席の 3 分の 2 を、革新勢力（社会党など）が 3 分の 1 を占めるような体制が続いたが、これを「55 年体制」と呼ぶ。
- ④ 「韓国との交渉を進め、朝鮮半島唯一の合法政府として国交を樹立する条約」とは、日韓基本条約のことであるが、これが調印されたのは 1965 年である。よって、これは問われている時期（1955 年前後）のできごととしては適当ではない。

以上より、答えは④である。

問 8 31 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- a 表の「果実」の行を見ると、果実に関する日本の食料自給率は年々減ってきていることがわかる。日本の果実の自給率が下がるという事は、その分海外からの果実輸入が増えてきているという事であり、この選択肢は正しい。
- b 表の「魚介類」の行を見ると、水産物に関する日本の食料自給率は確かに減少トレンドにあるものの、未だに 90%を超えており、「輸入に大きく依存」とまでは言えない。
- c 洋食関連品目の代表例として、表の「小麦」の行を見ると、小麦に関する日本の食料自給率は年々減ってきており、かなりの部分を輸入に頼っていることがうかがえる。よって、この選択肢は正しい。
- d 表の「米」の行を見ると、米に関する日本の食料自給率は 1955 年度から 1985 年度に至るまでほとんど変化しておらず、「輸入米が増加した」とは言えない。

以上より、a・c である①が答えとなる。